

## A 義認の概念

### ❖ 「義認」の問題

- パウロが明らかにしたことは：ユダヤ人も異邦人もともに義認（義、無罪と宣言されること）される必要があるということです。
- 義認とは何を含んでいるのでしょうか。
  - (a) それは、罪を宣告されることの反対です。義認された人は許されており、義（無罪）と宣告されているのです。(申命記 25:1)
  - (b) 神様の民の一員となることです。
  - (c) 神様と神様の契約と関係しています。

## B 義認の手段

### ❖ 律法の実行

- 律法の行いを実行することは思いと行動においてすべての律法を人生のすべての瞬間で満たす事を要求しています。
- もし、私たちがそれをする事が出来たとしても、律法の実行は私たちが救う事は出来ませんでした。それらは単に生き方の規則であり救いや許しの手段ではありません。

### ❖ 私たちの義認の根拠

- 信仰は行いにより補われる必要はありません。義認とはユダヤ教の実践を重んじた人たちが教えた信仰と行いによるものではなく、信仰のみによるものなのです。
- 信仰とは抽象的な概念ではありません。信仰のみを持つことはできません。何かに対する信仰を持たなければならず、それは、イエス様が私たちのためにして下さったことに対する信仰なのです。
- 信仰はそれ自体が義認をもたらすのではなく、私たちが義認することのできるイエス様にしがみつく手段なのです。
- 私たちの希望は「イエス様の信仰」であり、彼の信仰により救われるのであり、私たち自身の信仰にはなんの価値もないのです。

## C 義認の結果

### ❖ 信仰による従順

- 真の信仰は神様を愛し、その慈しみを感謝するように動かされ、触れられた心に生じるのです。
- 神様が私たちに永遠の命を与えるために支払われた偉大な犠牲を理解してはじめて私たちは信仰を持つにいたるのです。
- 信仰とは天来の啓示に対する愛の応答なのです。
- 信仰が生まれるとき、私は故意に罪を犯し神様を悲しませようとは思わなくなります。

### ❖ 信仰は罪を助長するか

- ある人たちはパウロが信仰を重んじ行いを重んじていないと責めました。彼らが異邦人たちが義認されたのちも罪を犯し続けることを勧めていると考えたのでした。
- パウロ彼は私たちが義認されて新たな創造物になると理解していました。キリストが私たちのうちに生き、私たちが歩むようにとあらかじめ備えられた働きを行うのです。(ガラテヤ 2:20、2コリント 5:17、エペソ 2:10)